

## 会 議 録

会議名	平成25年度 第4回 丸亀市自治推進委員会
開催日時	平成25年11月28日(木) 午後6:30~8:30
開催場所	丸亀市役所 本館2階第3会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p>鹿子嶋 仁 (会長)、大山 治彦、孫入 弘安、秋山 朋子、天野 裕子、西村 国子、吉井 精一、高木 明美 (副会長)、尾松 英二、北風 智恵美、楠原 英敏、浅野 睦、木下 研吾</p> <p>(欠席委員)</p> <p>奥村 素一、久米 正一</p> <p>(事務局)</p> <p>企画財政部長 大林 諭  (政 策 課) 課長 小山 隆史、副課長 渡辺 研介、  子ども・子育て一元化準備室長 栗山 佳子、  主任 鳥井 隆志、主事 野藤 咲乃</p>
議 題	<p>(1) 第2次協働推進計画について</p> <p>(2) その他</p>
傍聴者	なし
発言者	議事の概要及び発言の要旨
政策課長	<p>ただ今から丸亀市自治推進委員会を開会いたします。</p> <p>本日は大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。本日もよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、ここからの議事進行につきましては、丸亀市附属機関設置条例の規程により、鹿子嶋会長に司会進行をお願いいたします。</p>
鹿子嶋会長	<p>本日の会議は、委員総数15名中13名の出席であり、丸亀市附属機関設置条例別表に規定する「委員の半数以上の出席」という要件を満たしますことから、会議は有効に成立しておりますことを報告させていただきます。</p> <p>本日の議事は前回に引き続き、「第2次協働推進計画について」であります。</p> <p>第2次協働推進計画の案につきましては、前回、事務局よりたたき台と申しますか、まずは初期段階の案として全体のおおまかな構成が示されましたが、当日の資料配布ということもあり、なかなかご意見をいただくのも難しかったのではないのでしょうか。</p> <p>今回は事務局から、計画の変更点と、より具体的な説明をしていただけるようですので、前回以降に委員の皆様がお気づきになった点も含めまして、より細かい内容についてご意見をいただきたいと思いますと考えております。</p> <p>では、事務局よりご説明をお願いします。</p>

事務局	(事務局より説明)
鹿子嶋会長	<p>ただ今の説明に関しまして、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。</p> <p>前回の皆様からのご意見等を踏まえ、内容が変更されております。大きな部分では、「情報共有」に関する部分が追加されました。</p> <p>最後にご説明いただいた P13 分野別事業の記載に関してですが、今後どのような内容になるのでしょうか。</p>
事務局	分野別事業について説明する文章を入れる予定です。
鹿子嶋会長	<p>さらに今回、P9 以降の基本施策について具体的な説明がありました。前回は個別施策まで話し合うことができなかつたので、今回はこの部分まで含めて話し合えたらと思います。</p> <p>大きな変更点は、P9「情報共有」という部分を基本施策に位置づけた点だと思います。提言された大山先生、何かご意見はございませんでしょうか。</p>
大山委員	<p>事務局の方々、意見を反映していただきありがとうございます。ですが、せっかくここまでしていただいたので、もう一步踏み込んでもらいたいと思います。</p> <p>情報共有というのは、お互いが持っている情報を突き合わせることでありますが、持っている情報量は市役所のほうが多いので、市民参画や住民自治を推進したいのなら、市の方が積極的に情報を出す姿勢が必要だと思います。</p> <p>P8 基本方針②に「積極的に情報を公開」とあるので、P10 基本施策(1)でも、「積極的に情報を公開する」という文言を入れて欲しいです。いくら協働といっても、力に差がありすぎるため、市役所が一步出た姿勢が良いと思います。</p> <p>協働推進条例を作った際には、「信頼で築く」という文言を入れました。これは、今、行政と市民間で信頼関係が無いため、是非残したいという市民意見を反映したものです。そういう意味では、③の相互信頼の部分で「信頼を育みながら」という部分を具体的に示して、どうすれば信頼関係ができるのかを表した文章があってもいいと思いました。</p>
鹿子嶋会長	<p>情報請求があってから情報を公開するという消極的な姿勢ではなく、請求前に情報を公開するという「積極的な情報提供」ということであり、積極的に出せるものは出しましょうという市の姿勢が現れた文章が必要だということですね。その点でも、「信頼関係」は関係してきますね。</p>
事務局	<p>「情報提供」に関しては、P15「(4) 職員への啓発」の「地域に密着した活動」の中に「市役所職員が地域において様々な行政情報を提供し」という部分を今回追加しております。</p>
大山委員	それはそれで良いのですが、大原則としても大きく出して欲しいですね。

	<p>次に P3 の図についてですが、「協力」ではなく「協働」として、他のページとの整合性を保った方が良いと思います。</p> <p>加えて、第 2 章の各セクターの記述について提案があります。P4「丸亀市の現状と課題」のところで、P7「5 事業者」のところに市役所が入っておりますが、混ぜずに、「6 市役所」と項目立てて書いた方が良いと思います。市役所は第 1 セクター、事業者は第 2 セクターなので、その点からも分けて書いて欲しいと思いました。</p>
鹿子嶋会長	まず、P3 ページの「協力」ですが、事務局はどうお考えでしょうか。
事務局	「協働」に表現を改めます。
鹿子嶋会長	次に P7「事業者」について、大山委員の言われるとおり、主体としては別の様な感じがしますが、現状と課題について、市役所として書きづらいものではないのですか。
高木副会長	前計画では「市」が一番に書かれています。市役所が事業者に含まれる形よりは、市役所の役割を明確に分けて書いた方がいいと思いました。
鹿子嶋会長	順番としては、「1 丸亀市の状況」「2 市役所」としたほうが良いのでしょうか。それとも、「5 事業者」の前後どちらかが良いのでしょうか。
吉井委員	やはり「市役所」が先に書かれていると、行政第一の印象を与えてしまいますので、私は最後に「6 市役所」が良いと思います。こういうものは、市民が力をつけていかなないとものにならないため、「市民」を「市役所」より先にすべきです。
鹿子嶋会長	自治基本条例を作った背景として、市民側の、役所に任せっきりといった姿勢を払拭し、市役所自治から住民自治への転換をはかるということがあります。今回も市役所が一番上に来てしまうと、行政自治のイメージが再び出てきてしまいますね。
大山委員	今の吉井委員のご指摘は大切なご指摘です。誰が主体かという点で、また、人数的に見ても第 3 セクターである「市民」を最初に列挙するのが当然の並びだと思います。第 3 セクターの市民の次は第 2 セクターの事業者、最後に第 1 セクターの市役所という並びになりましょうか。自治基本条例でも、市民が第一に定義されていますね。
政策課長	また、P3「協働の担い手」という部分で、地域住民やコミュニティ、NPO、大学、企業、市役所としておりますので、パートナーという意味では、「6 市役所」と入れるべきだと考えておりますので、「6 市役所」といたします。
大山委員	次に「評価」と「検証」について質問です。P14 の(1)をあえて「検証」とした理由をお聞かせください。

政策課長	<p>今回この計画を作るにあたって、前計画の進捗状況を ABC で評価していただきました。今回も「評価」とすると、前回と同じイメージとなるので、「評価+α」ということで「検証」とさせていただきます。</p>
鹿子嶋会長	<p>P14「検証」のお話ですが、「評価・検証」とくっつけてはどうでしょうか。</p>
大山委員	<p>検証作業をして評価というのが流れだと思います。「評価」はディスカッションなどの考察段階、「検証」は事実に基づいてどうかという作業段階を示します。なので、ディスカッションを行う「評価」が適切だと思います。</p>
政策課長	<p>「評価」に戻したいと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>P16の第6章のところも「評価」となるのでしょうか。「チェック」というのは「検証」に近いような気もするのですが。</p>
政策課長	<p>(2)は分野別事業を想定し、事業実施にあたってP17,18を使ってチェックして欲しいという意味合いで「検証」と使っております。</p>
高木副会長	<p>P11「活動基盤の整備」というところで質問です。9月にいただいた資料では、市民活動支援センターに求める機能として、会議室の貸し出しや中間支援としての役割、市民への情報発信やコピー機の利用が高い数値を示していましたが、それらに対して今後実施していこうというものを入れたほうが良いと思います。</p> <p>また、P17の協働の際のチェックポイントですが、見ていると、協働の際に市と市民団体が気持ちよく協働しようという視点に重点が置かれており、事業が利用者や対象者に対してどうだったとか、目的がどうだったとかが軽視されており、その点では全計画の評価シートの方が良かったと思いました。</p>
鹿子嶋会長	<p>市民活動支援センターにつきましては、P11①の施策の展開の中で、「センターの設置や運営のあり方の検討」とありますが、この計画では内容まで具体化するものではないでしょう。</p>
政策課長	<p>前計画と大きく違う点は、本計画が実施計画という点です。</p> <p>本計画の区分としては基本施策と個別施策があるのですが、基本施策は条例をもとに分類させていただきました。条例が今のままである限り、基本施策は基本的にはこのままとして、個別施策以下を中心に毎年度ご意見等を頂き、検討していきたいと考えております。</p> <p>活動基盤については、まず、市民活動に関するホームページを立ち上げ、情報共有や情報交換ができたかと考えております。その上で、共有スペースが必要という声が多くあるならば、毎年度の見直しのなかで検討していく予定です。今まで協働コーナーを設けたこともありますが、あまり活用されずに終わりました。なので、今回の支援センタ</p>

	<p>一も、運営方法等の課題もあるため、現段階では検討とさせていただきます。</p>
天野委員	<p>前回大山先生から、「社会福祉協議会やボランティア協議会などの既存団体を中間支援団体として最大限に利用してはどうか」という意見が出ましたが、この点について、事務局の意見を聞かせてください。</p>
政策課長	<p>市外の既存団体に目を向ければあるかもしれませんが、身近で考えますと、色々と調整する部分があり、現段階では難しいです。</p>
大山委員	<p>歴史的な経緯を見ていくと、社会福祉協議会も公民館も、本来の意味では中間支援として作られたものです。なので、まずは既存団体にやらせてみて、力不足なら自治体が育成支援していくという原点に戻ったやり方を、前回お話させていただきました。</p>
政策課長	<p>市民活動支援センターに関しては、利用する側の動向がまだ調査段階のため、今回は検討とさせていただきます。</p>
吉井委員	<p>都市部では情報発信や市民が立ち寄って交流できる場所を提供している自治体があると聞きました。どのような機能を持たせるかという課題はありますが、そこに行けば市の情報が分かるという機能は最低限必要です。そこに、相談窓口がある機能的なものを是非作って欲しいです。今、コミュニティの一部でそのような事をやっていますが、コミュニティにはコミュニティの活動があるので、別に、専門の所があって欲しいです。</p>
高木副会長	<p>吉井委員の意見に賛成です。自分たちはサークルの立ち上げから活動を始めたのですが、チラシを置けるスペースというのは非常にありがたいです。加えて、コピー機が使える、会議室が使えるという機能は、団体立ち上げのためには必要なものです。例えばひまわりセンターの一室を有料でもいいので貸し出したりなど、そのような場所を作るのは団体のためになると思います。そして、そこに担当職員が必ず在席することで、他のグループの動向にも目を向けることができ、それはとても大事なことだと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>市民活動支援センターは現在検討段階ですが、出されたご意見を見ると、必要性は高いですね。</p> <p>次にP17、18のチェックシートの話に移りたいと思います。</p>
高木副会長	<p>私は前回の評価シートの方が良いと思います。今回のチェックシートは、市と市民団体が感じよく協働できたかを重視していて、市民団体が喜んで協働してくれたということが達成の目的になってしまっています。事業はどうか、対象者にとってどうかという部分を評価しないと、協働本来の目的とズレてしまうと私は思いました。</p>
吉井委員	<p>これまでの行政と市民団体との関係上、情報量など様々な点で行政が強いという印象があります。それを考慮して、事務局はこのようなシートを作ってくれたのだと思</p>

	<p>います。このチェックシートを市職員の皆さんが使ってくれるのなら、それは良いことだと思いました。解釈によっては副会長のようなとらえ方もできますね。</p>
秋山委員	<p>今年度、丸亀市は団体を調査し、丸亀に素晴らしい団体がたくさん存在することを明らかにしてくださいました。ただ、横のつながりが無いため、他の団体が協働を個々にされていても知らずに過ごしています。協働の活動に霧がかかったような状態なので、横のつながりを作るためにも、他の団体の話を聞く機会があれば良いと思いました。</p>
事務局	<p>前計画の評価シートは市提案型と提案公募型用の評価シートであり、今計画にも使用する予定です。P17以降のチェックシートは、もっと広範囲の「協働」をターゲットとしており、一般の方が協働を始める際に簡単なチェックができるよう、参考程度に作成したものです。</p>
鹿子嶋会長	<p>協働には様々なあり方があるので、今の事務局の説明はもっともですね。</p>
大山委員	<p>協働はより良いまちづくりをするのが目的であり、市民の利益になったかという公益性を評価すべきものです。協働したことで何が良くなったか、何が進んだかということの評価するのはとても大切なことだと思います。市役所が、自分たちがやる中でこういうことに注意するというものはあったほうが良いが、市民の意見を聞いて議論してからでない、ユニバーサルで使えるものはできないと思います。このチェックシートを作ることが、協働の一つの課題であり、1年目の課題としても良いかもしれませんね。</p>
高木副会長	<p>「市役所が来てくれなかった」、「関心を持ってくれなかった」と感じる市民団体を増やしたくないという考えが市役所側にあると思います。ですが、そこに着目しすぎていて、本来の協働からズレた結果を生むのではないかと不安です。なので、市がチェックするものと市民がチェックするものとで二つあるというのは良いと感じました。</p>
政策課長	<p>P17, 18は今後ご意見をいただきながら決めていきたいと思っております。これはあくまで参考程度なので、全ての事業にチェックをさせて提出を強要するようなものではありません。</p>
大山委員	<p>これは、市役所が「自分たちはこうします」、「こういう点に注意して協働します」というチェック項目を紹介した資料としてはどうでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>「市役所の姿勢としてはこういうチェックポイントで協働するので参考にしてください」という点では参考になりますね。ですが、市民にどんな利益を還元したかという視点が弱いので、その点を具体的に、また客観的にチェックできる項目を追加していただけたら良いでしょう。</p>
政策課長	<p>これは協働に携わる人や団体の行動に着目したチェック項目を作成しております。ご</p>

	指摘のとおり、市民全体に使えるものにするには、今後議論を重ねていくことが必要です。
鹿子嶋会長	(参考2) は分かりやすく良いですね。協働がイメージしやすくなります。
事務局	このチェックシートは様々なご意見をいただきながら作ったのですが、市職員としての意識が前面に出てしまい、どうしても市役所目線となってしまったようです。市役所だけでなく市民の皆様が使えるようなものを作るために、今後ご意見をいただけたら幸いです。
鹿子嶋会長	可能ならば、そのような方向で作るのが良いですね。実際に市民活動をされている方から見ていただいたほうが、より具体的なものができるかもしれません。
大山委員	焦らず、この自治推進委員会で今後作っていても良いと思います。それぞれの主体でチェックシートを作成し、突き合わせることで、違いや課題が判明し、より良いものが完成すると思います。
鹿子嶋会長	このチェックシートは、今後、市民や団体の側からどうかという議論を重ね、作っていくというのはどうでしょうか。P17、18 は市役所の立場でのチェックシートとして参考にするのが適切でしょう。
大山委員	「チェックシート市役所版」で良いと思います。
吉井委員	繰り返しになりますが、協働の際、市の立場はどうしても上になりがちなので、その点に気をつけるためにも、このチェックシートを活用して、今後良くなって欲しいと思います。
高木副会長	市役所用のチェックシートということですが、それならば、何のための協働なのかという目的部分を強く示したものを改めて作って欲しいです。また、これは評価シートではなく、事業をしていく中でチェックをしていくだけのシートなので、別にもう一つ必要だと思います。
大山委員	協働する・しないの前に、前提として、これは本当に協働すべき事業なのか、市役所が責任もつべき事業ではないのかと考えることがまず一点。また、目的が協働としてふさわしいものかチェックするというものが一点あります。これらを、実際協働を始める際のチェックシートに入れるのか、最終の評価段階のシートに入れるのか、確認しておきたいです。
高木副会長	チェックシートという形でも良いが、前回の評価シートは非常によくできています。その中に、協働の形態は適切かという項目があるのですが、これは、チェックシートで

	も入れて欲しい項目だと思いました。
鹿子嶋会長	その他、何かご意見はありませんか。 今回は学生のお二人に感想などの意見を聞いてみたいと思います。
木下委員	なんのための協働かという大前提の部分ですが、P17, 18 のチェックシートの項目では、信頼云々ではなく、気持ちよく協働しようということが前面に出ているなどは感じました。 また、情報提供として各コミュニティなどで事業の報告をすることで、それを参考に する団体が出てきたり、ある団体に「どこどこの団体に詳しく聞きに行ってはどうか」と 助言をすることで、横のつながりができていくのではないかと思います。
浅野委員	資料を見ているだけでは自分の意見というものが出てこなかったが、他の委員さんの 意見を聞くと、確かにその通りだと気づかされる場面が多かったです。特に、秋山委員 の「横のつながりが無い」という部分については同感なので、つながり作りのための計 画を作成していく必要があると感じました。
鹿子嶋会長	では、事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いします。
事務局	(今後のスケジュールについての説明)
鹿子嶋会長	ありがとうございます。 本日はお疲れ様でした。以上をもちまして、審議会を終了いたします。